



**Data**

監督：サンジャイ・リーラ・バンサーリー

出演：ディーピカー・パードウコーン / ランヴィール・シン / シヤーヒド・カプール / アディティ・ラーオ・ハイダリー / ラザ・ムラッド

### ■ショートコメント■

◆「インド映画史を塗り替える、めくるめく映画体験！」「荘厳にして絢爛豪華！」チラシにはそんな宣伝文句が踊り、「女神の誕生」というサブタイトル通りの美女の姿が映っている。

『パドマーワト』と言われても何のことかさっぱりわからないが、本作は、16世紀に生み出されたインド古来の伝記で、「パドマーワトに描かれた愛と誇り物語が、500年の時を超えて、インド映画史上最大級の制作費を費やした究極の映像美で蘇る！」だそうだ。

◆チラシによれば、本作のストーリーは次の通りだ。

13世紀末、西インドの小国、メーワール王国の妃となった絶世の美女、パドマーワティを巡り、夫である国王ラタン・シンの誇りを重んじる高潔さと、インド一帯を席卷する強大な軍力で、全てをその手に入れる事に執念を燃やすイスラム教国の王、アラーウッディーンの野望が火花を散らす。城を取り囲むアラーウッディーンの大軍勢と睨みあうメーワール王国の兵士たち。やがて始まる、王と王の誇りと野望を懸けた最後の戦い。天下に轟くその美貌が巻き起こした一国の存亡の危機に、パドマーワティは、ある決意をもって臨んでいた。

◆本作は確かに「荘厳にして絢爛豪華！」。しかし、約3時間の長尺にもかかわらず、その内容は美女・パドマーワティ（ディーピカー・パードウコーン）を巡る2人の男の確執（取り合い）に終始している。そして、ラタン・シン（シヤーヒド・カプール）率いるメーワール王国と、イスラム教国の王・アラーウッディーン（ランヴィール・シン）率いる大軍との激突はいかにもあっけない。

エリザベス・テイラーが主演した『クレオパトラ』（63年）では、絶世の美女クレオパトラを巡るレックス・ハリソン演ずるシーザーとリチャード・バートン演ずるアントニーの確執が大きなテーマだったが、同時に地中海の支配を巡るローマ帝国 vs エジプト王国の

戦いのスペクタクルが大きな見モノだった。それに比べると、本作は全然ダメ……。

◆『バーフバリ 王の凱旋 完全版』(17年)は、複雑に絡み合ったストーリーもメチャ面白く、何とも絢爛豪華なインド映画の歴史絵巻だった(『シネマ42』未掲載)が、それに比べても本作は全然ダメ。これでは、インドで大ヒットしたとしても、日本での『バーフバリ』旋風の再来はととてもムリ……。

2019 (令和元) 年6月14日記